

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	017053700		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム 北海ハウス二番館 (ききょう)		
所在地	札幌市白石区北郷8条3丁目6番30号		
自己評価作成日	平成25年12月24日	評価結果市町村受理日	平成26年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本家屋をコンセプトに、落ち着いた雰囲気の中での和風造りの建物です。今までの生活の延長になる様な暮らし方を大事にして、特別なレクリエーションは日課に組み、食事以外の時間は、各々好きな様にゆったりと生活しています。その中でもそれぞれに生活の中での役割を担い、移りゆく季節を感じながら日々生活しています。特に食べる事を楽しみにできる様、日々の献立もスタッフがバランスを考えて立て、目からも美味しく食べれる様に盛り付けにも気を配っています。また、お誕生日や季節の行事食にも力を入れています。スタッフ同士が常に開けた関係でいられる様にお互いにコミュニケーションを取る事を大切にして、命を預かっている重みを感じながらも、仲良く、楽しんで仕事に取り組める様な環境作りを日々心がけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170503700-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 1 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム北海ハウス二番館は、3つのグループホームや高齢者共同住宅、デイサービスなどを運営する法人が開設し、9年の実績があります。昨年末に管理者及びユニットリーダーの異動があり、新体制のもとで新たなホームを職員皆で作上げていこうという意欲があります。また、法人内のホームに職員が出向するなど、他のホームでの成功事例を取り上げ、ケアの向上に努めています。管理者は、利用者の生活にとって馴染みの職員のケアが大切だということを意識し、職員を育て、意欲を引き出す環境作りを目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で、明るく、やさしく」を理念にあげ、家庭的な環境の下で、利用者が理念通りに暮らせる様実践している	理念は職員や来訪者の目につくように玄関に掲示しています。職員一人ひとりが利用者の穏やかな生活を支えるために理念が実践されるように意識付けをしています。	理念は掲示されていますが、地域密着型サービスとして、地域とのかかわりなどには触れられていません。管理者の変更から新体制となったこともあり今後は地域とのかかわりを含めた理念の策定を期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時には挨拶や会話をしたり、地域の行事に参加している。避難訓練時には協力を得ている	町内会の祭りに利用者を出かけています。散歩の際に挨拶を交わしています。避難訓練には町内会役員や民生委員が参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方々に知ってもらう様努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では必ず近況を伝え、意見交換を行い、更なるサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催しています。法人本部からの出席もあり、家族等の希望などをホームだけでなく、法人としても把握し運営に活用しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方とはお互いに連絡を取り合い、相談をしたり、情報を交換したりしながら協力関係を築く様に取り組んでいる	区役所介護保険課や地域包括支援センター、保護課など関連部署と連携しながら利用者の生活を支えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での勉強会や外部研修を通じて、職員全員が理解している。施錠については、立地条件的にクリアできていないが、利用者の希望時には外出をしている	身体拘束防止に関するマニュアルがあり、内部研修や外部研修を実施しています。また、職員同士でもお互いに注意を喚起しています。玄関は高速道路に並行する交通量の多い道路に面しているため、安全に配慮し常時施錠しています。ただし、利用者が外出する意向がある場合には職員が同行するなどしています。	身体拘束防止についての研修会は実施していますが、入居者の生活状況や症状に当てはめての実践的な検討が行われていません。介護保険指定基準に基づきやむを得ず身体拘束を行う場合の手順や必要な書類などについても職員全員で確認し、適正な運用が期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議時に勉強会を行ったり、外部研修に参加して職員全員が内容を共有し、防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で学ぶ機会を持ち、勉強会で職員全員が共有できる様努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解りやすい言葉で説明し、不安や疑問点には何度でも説明し、理解・納得して頂ける様努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは話しやすい環境作りを心掛け、日常的に意見・要望を汲み取る様にしている。ご家族とは電話や来訪時に意見や要望を求め、運営に反映させている	ユニット毎に利用者の暮らしの様子を伝える写真が掲載された「たより」を年に4回発行する予定になっています。また、個別の連絡は家族の面会などの機会に行い利用者の様子を伝えていきます。事業所の様子などを伝えながら家族の意見を汲み取るようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案をしやすい雰囲気作りに努めている	2ヵ月に1回程度、フロア会議を実施しています。管理者は職員の様子をよく見ながら声をかけ、業務などの相談にこまかに対応するようにしています。今後は職員意見を取り入れ、新規入職者の研修の体系化や職員の定着に取り組むことにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援や外部研修への参加を行い、各自が向上心を持って働ける様な環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自の力量を把握し、力量に応じた研修への参加を促し、ケアのアドバイス等しながら育成に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や外部研修時に同業者との交流はあるが、相互訪問等の活動までは至っていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居1ヶ月はホームの生活に慣れる事を優先に、以前の暮らしを取り入れ、安心して暮らせる様に不安や要望を聞きながら、信頼関係を築く様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事や要望を聞き取りながら、いつでも相談できる様な関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントを行い、本人・家族と話し合いながらケアプランを作成し、必要な支援の見極めをしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りを大切にし、利用者ともお互いに支え合う関係作りを心掛けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の気持ちを考えながら、皆で協力し合い、利用者を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントした事や、日々の会話の中から馴染みの関係を把握し、家族の協力を得ながら関係継続の支援に努めている	利用者が家族に面会を希望する時や、ケア場面で家族の協力を得たい場合に家族との連絡調整を行っています。利用者の馴染みの場所への訪問などの希望も家族に提案し、墓参りなどを実現しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごせる様に職員が介入しながら利用者同士が楽しく暮らせる環境作りに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意志の把握に常に努めており、職員間でも話し合っている	家族からの利用者の暮らしぶりなどを聴取し、職員との日常的な会話の中から利用者の希望を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当者を決めており、アセスメントを取りながら、常に経過の把握に努めている。職員間の情報共有も行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録等で情報を共有し、一人一人の状態の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に状態を把握しながら職員間や必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月おきに計画のモニタリングを行い、介護計画はユニットリーダーが6ヵ月毎に作成しています。計画の他に職員が毎日の支援で行うことをまとめたケア表を作成しています。計画に従って支援を行い早見表などに記録をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケア表を個別に記入して、気づきや工夫を話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿って、他事業所のサービスの利用等を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの利用や地域行事の参加を通じて、豊かな暮らしを楽しめる様支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に沿いながら、協力も得て、かかりつけ医への受診を支援している	利用者全員が2つの医療機関から選んで訪問医療を利用しています。また、家族と利用者が通院する場合は職員が同行し、暮らしぶりや症状を医師に伝えていきます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や訪問看護師に相談し、協力を得ている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月2回の往診を受けており、常に協力を得られる体制になっている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重篤化した場合の対応方針」の同意書を用意し、利用開始時に家族に確認し、同意を得てから方針等を共有し、支援に努めている	契約時に重要事項として説明を行い、看取りを行わないことを伝えていきます。重度化した場合は職員がケースごとに検討し、支援に当たっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修の参加や、マニュアルの確認、フロア会議での勉強会を行い、職員全員が実践できる様努めている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や町内会の協力も得ながら、避難訓練を定期的に行い全職員が救助方法を身につけている	避難訓練は年2回実施しています。民生委員など地域からの参加もあります。夜間想定訓練を行っており、法人本部からは避難時間を短縮するよう指示があり、重点的な取り組みとして位置づけられています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本位、尊厳の保持を心掛けた対応に努めている	利用者の尊厳について、実際の生活場面やケアの実施の際に新入職員に対し先輩職員が実践的に伝えていきます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中より本人の希望を汲み取る様に努めている。選択の幅が広がる様な声かけを行っている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を心掛けており、個々のペースに合わせた生活ができる様に努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを把握し、季節や場所に合った身だしなみやおしゃれができる様に支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時に希望を聞いて食事作りに活かしている。食器拭き等は一緒に行なっている	職員がユニット毎にメニューを決めています。利用者と一緒に食材の買い物に出かけています。利用者の力量に合わせて食事の準備や後片付けに参加してもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握しながら、一日30品目を目標に献立をたて、水分量も一日を通して確保できる様支援している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じた口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科医に相談し、対応している			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握し、尊厳に配慮しながら自立に向けて支援を行っている	利用者がトイレでの排泄ができるように、時間毎に誘導を行っています。その他に利用者の様子を確認し、個別のトイレのサインを見逃さず支援しています。トイレでの排泄が難しい場合はポータブルトイレなどの活用も行っていきます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて飲食物の工夫や水分量の確保、運動の促し等便秘予防に努めている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に沿った支援を行う様努めている	利用者が希望する日に入浴ができるようにしています。午後の時間帯で支援を行っており、職員と会話をしながら、リラックスして入浴できるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合せ、ゆったり過ごせ、夜間は安眠できる様に支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認を必ず行い、誤薬がない様努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や馴染みの暮らしを活かせる様に気を付けながら支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調に配慮し、本人の希望を把握しながら、家族の協力も得ながら外出計画を立てて支援している	冬期間の外出は難しいが、夏場は日常的に散歩などを行っています。個別や少人数のグループでの外出行事も実施しており、外食や水族館、動物園など利用者に合わせて出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望に合わせて家族と相談し、お金の所持や使う事を支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心掛け、季節感に配慮した飾り付け等を行い、居心地よく、場所が解り易い様な表示等を行っている	利用者のフォトフレームや絵画、植物が飾られた居間にソファや食卓が配置されています。新聞やテレビなどがあり、思い思いに過ごせるように工夫されています。また、喫煙室があり、居間にはエアコンも設置され、空調に配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファやテーブルの配置に工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より馴染みの暮らしを損なわない様に使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂いて居心地よく過ごせる様工夫している	居室のベッドのみリースを利用することができますが、他は利用者の馴染みの物を持ち込みをしています。ギターなどの趣味の品物や、仏壇など、利用者それぞれが大切にしている物を身近に感じながら生活できるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じた自立支援を行っており、安全に配慮した環境作りを心掛けている		